

全国福祉高等学校長会主催  
平成29年度 第1回 社会福祉・介護福祉検定

# 3 級 問 題

(50分)

◎指示があるまで開けないでください。

## 注 意 事 項

- 1 解答用紙への受験番号等の記入  
解答用紙に、受験番号、学校名、クラス、氏名を記入してください。
- 2 試験問題数は150問です。解答時間は50分です。
- 3 解答方法
  - (1) 各問題について、正しい文章であれば○、間違っている文章であれば×を解答欄に記入してください。
  - (2) 一度解答したところを訂正する場合は、消しゴムで消し残りのないように完全に消してください。
- 4 その他の注意事項
  - (1) 印刷不良やページが抜けている場合は、手を挙げて試験監督の先生に連絡してください。
  - (2) 問題の内容についての質問には、一切お答えできません。



問題番号	問題
1	共助とは、生活保護や児童福祉をはじめ、公的機関によって支援されることをいう。
2	社会福祉士は、生活上のニーズを持つ人の福祉に関する相談に応じ、助言、指導、関係者との連絡調整等を行うことが業務である。
3	日本介護福祉士会は、1995年に倫理綱領を定めている。
4	在宅介護従事者は、利用者が在宅生活を維持していくために必要な福祉サービスの関係者のみと連携をとりながらサービスを提供していくことが必要である。
5	インフォーマルサービスは、公的なサービスではない、地域住民や民間団体などのボランティアを中心としたサービスである。
6	日本国憲法第14条には、「すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する」と規定されている。
7	ノーマライゼーションの考え方は、高齢者福祉の分野から広がった。
8	ユニットケアでは、プライバシーや生活のリズムを保つための個室と、他の入居者との人間関係を築くための共同スペースがある。
9	近年、援助に関する視点が変わってきているため、ノーマライゼーションとは、「自分ひとりで何でもでき、生活することに問題がない」といった個人の問題と考えられるようになった。
10	ノーマライゼーションとは、障害者や高齢者など社会的に不利を受けやすい人々が、社会の中で他の人々と同じように生活し、活動することが社会の本来あるべき姿だという考えである。
11	バイステックの7原則は、対人援助に従事する人の基本姿勢を示したものであり、秘密保持の原則は含んでいない。
12	ポディメカニクスの原則により、支持基底面積を広くとること、重心の位置を上げることで、からだが安定する。
13	男性は、排せつ時に尿が後ろに回ることを配慮して、後ろ部分に尿取りパッドや紙おむつを重ねて厚くする。
14	ストマ保有者(オストメイト)のほとんどは、自分で便の処理ができない。
15	下行結腸の人工肛門では、便は固まっており、排便回数は少ない。
16	日本式の座位入浴は身体にかかる水圧が高いため、心臓などの循環器系にかかる負担が大きい。
17	2008年5月から、FTA(経済連携協定)に基づくインドネシアとフィリピンからの介護人材の受け入れが始まった。
18	介護事業所で働く人の保有資格は介護福祉士が一番多い。
19	2008年の実態調査において、福祉介護分野での就労継続の意向については、給与や労働条件に不満をもちながらも働き続けたいと約8割の人が答えた。
20	介護福祉士の倫理綱領は、介護福祉士の行動基準を示したものであり、地域福祉の推進は含んでいない。
21	生活課題とは、日常生活を送る個人と社会環境の間に生じるさまざまな不自由のことである。
22	支持基底面積とは、利用者のつま先と介助者のつま先を結んだ円である。

問題番号	問題
23	高齢者になると、つまづいて転倒したため骨折し、それが寝たきりにつながることが多い。
24	介護を通じたコミュニケーションは、信頼関係(ラポール)形成の基盤であり、介護の質の向上に必須である。
25	高齢者の健康は短期間で損なわれることは少ないため、悪化の兆候があっても廃用症候群などの悪循環に陥るまでには時間がかかる。
26	要介護認定において要支援と認定された場合は、地域包括支援センターに介護サービスの利用申し込みをする。
27	ケアマネジャーは、年に1回利用者宅を訪問して確認する「モニタリング」を行う。
28	短期入所(ショートステイ)とは、要介護高齢者などが一時的に介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)等を利用するサービスである。
29	同行援護とは、知的障害や精神障害のため行動が大変困難で常時介護が必要な人に対し、外出時における移動中の介護を行うサービスである。
30	介護支援専門員は通称としてケースワーカーと呼ばれている。
31	介護支援専門員とは、保健・医療・福祉の分野の国家資格を持ち、実務経験5年以上の人が受験できる。
32	介護福祉士は、要介護者やその家族などからの相談に応じ、介護サービス計画(ケアプラン)を作成する。
33	保健師は、生活支援を担う相談援助職として生活場面での面接の活用が期待されている。
34	わが国の社会保障給付費を「年金」、「医療」、「福祉その他」という3部門の推移で見ると、現在は「年金」が最も多い。
35	日本国憲法第25条の規定に基づき、社会保障の範囲として、社会保険、国家扶助、公衆衛生の3分野をあげている。
36	福祉事務所は、市町村のうち市および特別区(東京23区)には必ず設置されている。
37	児童の虐待、児童養護、障害児など子どもに関する相談を行うのは児童相談所である。
38	障害者は障害者基本法で定義されている。
39	身体障害者手帳は、身体障害者福祉法で定める障害の範囲にある人に、市町村長が交付するものである。
40	障害支援区分の認定には、医師の意見書が必要である。
41	知的障害者福祉法には知的障害者の定義が明記されている。
42	ピープルファーストとは、「自分たちは、障害者である前に人間である」という言葉を掲げている。
43	厚生労働省「生活のしづらさなどに関する調査2011年」によると、知的障害児・者の生活の場として最も多いのがグループホームである。
44	うつ病は、抑うつ状態になり、元気が出ない、意欲や活動性が低下する、不眠、食欲が低下するなどの症状がある。

問題番号	問題
45	ソーシャル・インクルージョンとは、少数の人々を排除せず、共にあるべきとするヨーロッパの考え方である。
46	日本の高齢化率は世界第2位である。
47	地域包括支援センターには、社会福祉士、保健師、主任介護支援専門員が配置されている。
48	認知症の原因となる疾患として、65歳以上ではアルツハイマー病が最も多い。
49	介護保険法の一部改正により、介護老人福祉施設の入所基準が、2015年度から原則として要介護度3以上に変更された。
50	成年後見制度には、法定後見制度と任意後見制度がある。
51	援助を必要とする人が、どのようなコミュニケーション方法をとっているのかを知ることは、信頼関係を築く上で重要である。
52	コミュニケーションの方法として、利用者と直接対面し、会話することが最も良い。
53	サービス利用に関する情報は、質より量でなるべく多くの情報を提供することが重要である。
54	言語的コミュニケーションでは、言葉の持つ一般的な意味だけでなく、その言葉の背景にある思いや訴え、感情を理解して受け止める姿勢が大切である。
55	ノートテイクは、聴覚に障害のある学生のためだけに行われる支援である。
56	介護を行う上での目的は介護職が理解することが重要で、利用者とは共有する必要はない。
57	介護従事者は利用者に対しへりくだった態度で接することで、その方の尊厳を守る。
58	利用者を理解するためには、その人の生きてきた時代背景を理解することが必要である。
59	話しかけても反応がない利用者に対しては、必要以上にコミュニケーションをとる必要はない。
60	暴力的な行動や攻撃的な言動のある利用者は支援を受けたいと考えていないので、そのまましておく。
61	ピアジェは、幼児期までの間に口唇期などのいくつかの発達段階を経て、パーソナリティの基礎がつけられ、それぞれの時期にどれだけ欲求が満たされるかで性格が異なってくると考えた。
62	ストレスを引き起こす物理的・精神的因子をストレッサーという。
63	加齢による聴力の低下では、低音域の聞き取り困難が多い。
64	加齢による身体機能の変化として、造血機能の低下により、手足の冷えや貧血による立ちくらみを起こすことがある。
65	加齢に伴う汗腺の減少、皮脂の分泌低下によりドライスキンとなる。
66	加齢により、エピソード記憶は衰えやすいが、手続き記憶は低下しない。

問題番号	問題
67	世界保健機構(WHO), 老人福祉法などでは, 60歳以上を高齢者としている。
68	高齢者は, 腸の蠕動運動が低下して下痢が生じやすくなる。
69	高齢者は, 加齢により咳反射が低下し, 痰を吐く力が弱くなる。
70	男性は, 加齢による前立腺肥大により尿道が圧迫され, 尿が出にくくなることがある。
71	1994年12月には新ゴールドプランが策定され, グループホームやデイサービスなど在宅を基盤としたサービスの充実がはかられた。
72	パーソンセンタードケアとは, 世界的に大きな影響を与えた認知症のケアの理念であり, その人を中心とした介護である。
73	認知症高齢者の数は, 後期高齢者の増加と共に増え続け, 2025年には700万人を超えると予想されている。
74	後期高齢者の増加とともに認知症高齢者の増加が予想されているが, とりわけ脳血管性認知症の増加が予想されている。
75	徘徊, 妄想, 不安, 興奮, 攻撃など, 記憶障害に伴う認知症に特有な行動・心理症状(BPSD)を中核症状という。
76	アルツハイマー型認知症は, 物忘れを主な症状として, 徐々に進行する脳神経変性疾患である。
77	40代, 50代でも認知症になる場合があり, 65歳未満で発症する認知症を若年性認知症と呼んでいる。
78	小規模多機能型居宅介護事業所の定員は, 10名以下である。
79	長期に渡り多量の飲酒を続けていると認知症の状態になることがある。
80	アルツハイマー型認知症は, 高齢の男性に多く, 病識は早期に失われる。
81	認知症高齢者の徘徊は, 目的がないことがほとんどである。
82	認知症になると, 脳の器質的な障害が基礎として認められるようになるため, 今まで行ってきた仕事や行動, 日常生活を一定のレベルに保つことが難しくなる。
83	小規模多機能型居宅介護事業所には, 介護・看護職の他に介護支援専門員が必要である。
84	脳血管性認知症の特徴として, 記憶が比較的保たれている部分と, そうでない部分がある(まだら認知症)。
85	認知症の高齢者とコミュニケーションをとる場合は, 介護する側からの指示を中心とする。
86	1981年の国際障害者年のテーマである「完全参加と活動」に代表される障害者福祉の理念が発展するなかで, 1993年12月に障害者基本法が成立した。
87	近年では, 「包含」を意味するインクルージョンという考え方が普及している。これは障害の有無にとらわれず, 個人のニーズに応じた支援や援助の必要性を強調したものである。
88	リハビリテーションという言葉は, 中世のヨーロッパにおいて教会から破門された人々が再び名誉を取戻したことに由来し, 人間の持つ権利・尊厳・名誉などが傷つけられた人に対し, それらを回復する全人的復権という意味がこめられている。

問題番号	問題
89	バンク＝ミケルセンは、「ノーマライゼーションの育ての親」と呼ばれ、ノーマライゼーションの理念を「1959年法」に反映し、ノーマライゼーションの理論化をはかった。
90	リハビリテーションの分野には、医学的リハビリテーション、職業的リハビリテーション、教育的リハビリテーションの3つがある。
91	エンパワメント・アプローチとは、従来の病気や障害に着目した援助から、健康的な部分や可能性に着目し、抑圧的な環境を改善することによって、本人自身が自らの課題に気づき、主体的に解決策を見いだしていく支援方法である。
92	視覚障害のうち、全く見えない場合を「全盲」、少し見える場合を「少盲」という。
93	言語障害とは、発音や話し方の表現および言葉の理解が困難な状態をいう。先天的なものや運動麻痺によるものがある。
94	脊髄損傷は、損傷した脊髄の部分によって影響する機能はことなるが、主な障害として、手足を動かすことが困難になる運動障害、感覚がにぶくなる感覚障害、膀胱や直腸の機能があまり動かない排せつ障害などがある。
95	脳塞栓とは、脳の血管に血液のかたまりができ、詰まることをいう。
96	内部障害とは、からだの内部にある臓器が十分に機能せず、日常生活が制限される状態をいう。身体障害者福祉法の対象となる臓器は、心臓、腎臓、呼吸器、膀胱または直腸、小腸で、2010年度より肝臓が加えられた。
97	近年、障害者を理解するには、その人の病気や障害のみに着目するのではなく、ストレングス(本人の性格、得意分野、関心ごと、本人をとりまく環境)に着目する必要性が強調されている。
98	脳性麻痺のアテトーゼ型は、手足がなかなか動かせず、指・手首・足首・ひじなどの関節が変形している場合が多い。
99	精神障害者の支援や相談は、社会福祉専門職の認定心理士が担っている。
100	精神障害者の総数は、現在392万人(在宅者361万人、施設入所者31万人)である。(2014年)。外来を受診する人には、そううつ病を含む気分障害が多く、入院・施設入所者では、うつ病が多くなっている。
101	血糖が上昇すると膵臓からグルカゴンが分泌され血糖を下げる。逆に空腹になると血糖が低下し、膵臓からインスリンが分泌され血糖は上昇する。
102	大脳には、運動・感覚・言語・記憶・意思・思考・判断などの人間らしく生きていくうえで必要な機能があり、それらは特定の部位に分布している。
103	錐体交差によって、右脳は左半身の動きを、左脳は右半身の動きをつかさどっている。
104	胃は、入り口を幽門、出口を噴門といい、胃の内部は上から胃底部、胃体部、幽門部に分けられる。胃粘膜には胃底腺がある。
105	水分や消化された食べ物は、主に小腸・大腸を通過する過程で体内に吸収される。
106	気道は、鼻腔、咽頭、気管、気管支から構成されている。
107	肺と外の空気を交換し、肺胞と毛細血管の間でガス交換を行うことを内呼吸という。
108	皮膚感覚には、痛覚、触覚、冷覚、圧覚、温度覚などを感じる多くの感覚受容器がある。
109	中耳に存在する耳小骨とは、ツチ骨、キヌタ骨、アブミ骨である。
110	尿道は腎臓で生成された尿を膀胱に運ぶ管である。

問題番号	問題
111	爪や髪は皮膚の付属器官で、どちらも神経や血管は通っていない。
112	口腔は、温度や湿度、栄養など、微生物が繁殖しやすい条件がそろっている。
113	ADLとは、生活するために行う食事、排せつ、更衣、入浴、移動、整容などの基本的動作をいう。
114	仰臥位の場合、仙骨部は褥瘡の好発部位である。
115	からだに必要な3大栄養素とは、タンパク質、脂質、ビタミンである。
116	入浴には、温熱作用、静水圧作用、浮力作用がある。
117	尿が膀胱外に出るための尿道の長さは男女で異なり、女性は短く直線であるため、感染を受けやすい。
118	大腸に送られた食べ物の残渣は腸内細菌により分解される。
119	眠気と体温は深い関係があり、体温の上がりにはじめに強い眠気が起こる。
120	キューブラー・ロスは著書『死ぬ瞬間』のなかで、死にゆく人が否認の後に事実を認め、やがて受容していく心理過程を5段階で示している。
121	ユニバーサルデザインは、できるだけ多くの人が年齢や能力の違いにかかわらず可能な限り使いやすいデザインをめざす考え方である。
122	木造の日本家屋は、高温多湿の気候に合わせて、段差を少なくフラットな床にしている。
123	「家庭内の不慮の事故」で死亡した65歳以上の高齢者の死亡事故原因は「浴室での溺死および溺水」が一番多い。
124	介護保険制度での住宅改修費支給項目の中には洋式便器等への便器の取り替えは含まれない。
125	障害者などの対象者の家事支援は、場合に応じて自分の価値観で判断して行う。
126	食中毒は12～2月の乾燥した時期には発生しない。
127	弁当や生菓子などのようにあまり日持ちのしない食品に記載される期限を消費期限という。
128	だしのうま味を利用することで減塩することができる。
129	気密性の高い住宅構造、暖房や加湿器等の設備の普及によって、ダニの大量発生やアレルギー性疾患が増加したと考えられる。
130	裁縫をすることは、脳の活性化につながるだけでなく、リハビリテーションの意味を持つとも考えられる。
131	寝たきりで寝返りができない場合、敷き布団は腰が沈むくらいやわらかいものを選ぶ。
132	訪問販売や電話勧誘販売など特定の取引方法で契約した場合に、申し込みや契約をした後でも、一定の条件を満たしていればクーリング・オフ制度が適用される。

問題番号	問題
133	身なりを整えることは、人に見られる、見せるという意味で、心理面や精神面での自立にはつながらず、社会の中で自立した個人としての相互の関係を維持していくために重要な動作ではない。
134	耳垢は、耳かきや綿棒を使って除去するが、耳垢がかたくてとれないときは無理をしてでも取る。
135	高齢者は爪がもろく割れやすいため、介助する時は少しずつ切るのが望ましい。
136	総入れ歯は面が広い下あごから装着し、上あごからはずすのが一般的な方法である。
137	衣類を選択するときは、利用者の好みや自己決定を大切にし、さらに、麻痺や拘縮、関節可動域制限などの身体的側面を考慮して、できるだけ本人が着脱しやすい衣類を選ぶことが自立にもつながる。
138	褥瘡は、同一体位による体重の圧迫が腰や背中、足などの骨の突出部に集中して加わることで発生する。褥瘡予防の観点からもからだを動かすことが重要である。
139	運動麻痺は、運動機能をすべて喪失した完全麻痺と、少し動く不完全麻痺がある。
140	対麻痺は、腰椎・胸椎損傷などで起こり、両側下肢が麻痺の状態をいう。
141	人の重心は、骨盤内にあり、仙骨のやや前方にある。重心の位置が低いほど姿勢は安定する。
142	利用者を水平移動する場合、介護者はベッドの側面に肩幅程度に足を開いてベッドに膝をつけ、膝を「てこの原理」の支点にして、腰を下げることで利用者を移動させる。上半身も、これと同様の方法でできる。
143	車いすのフットサポートの高さが足の長さとは合っているか点検する際、適切な高さは、膝が60°になっている状態である。
144	車いすの介助として、坂道では、上り坂は後ろ向きでゆっくり登り、急な下り坂は、前向きにしてゆっくり下りる。
145	経口摂取できない場合は、食べるという人生の大切なQOLが欠けているため、語りかけなどコミュニケーションを増やし、支えることが大切である。
146	誤嚥予防のため食事介助は、麻痺のない側の口唇から行う。飲み込む時は、頭を前傾した姿勢が安全である。
147	誤嚥を防ぐために好ましい食品は、こんにやく、海苔、水等である。控えたい食品は、プリン、とろろいも、ポテトのマッシュサラダ等があげられる。
148	体調の変化が起こりやすい入浴は、事前にバイタルサイン測定や体調の観察を行い、入浴ができるかどうかの判断が必要である。
149	睡眠には、脳波のパターンによりレム睡眠とノンレム睡眠があり、レム睡眠は60分ごとに現れるといわれている。
150	どのような個人活動も集団活動も、利用者によってレクリエーションになったり、義務や苦痛になったりする。参加や不参加を含めて個人の意思を尊重することを忘れてはならない。

受験番号				学校名			
クラス	年	組	番	氏名			

	解答欄		解答欄		解答欄		解答欄		解答欄		解答欄		解答欄		解答欄		解答欄		
1	×	11	×	21	○	31	○	41	×	51	○	61	×	71	○	81	×	91	○
2	○	12	×	22	×	32	×	42	○	52	×	62	○	72	○	82	○	92	×
3	○	13	×	23	○	33	×	43	×	53	×	63	×	73	○	83	○	93	○
4	×	14	×	24	○	34	○	44	○	54	○	64	○	74	×	84	○	94	○
5	○	15	×	25	×	35	×	45	○	55	×	65	○	75	×	85	×	95	×
6	×	16	○	26	○	36	○	46	×	56	×	66	○	76	○	86	×	96	○
7	×	17	×	27	×	37	○	47	○	57	×	67	×	77	○	87	○	97	○
8	○	18	×	28	○	38	○	48	○	58	○	68	×	78	×	88	○	98	×
9	×	19	○	29	×	39	×	49	○	59	×	69	○	79	○	89	×	99	×
10	○	20	×	30	×	40	○	50	○	60	×	70	○	80	×	90	×	100	×

①1～10の得点	②11～20の得点	③21～30の得点	④31～40の得点	⑤41～50の得点	⑥51～60の得点	⑦61～70の得点	⑧71～80の得点	⑨81から90の得点	⑩91から100の得点
----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	------------	-------------

	解答欄		解答欄		解答欄		解答欄		
101	×	111	○	121	○	131	×	141	○
102	○	112	○	122	×	132	○	142	○
103	○	113	○	123	○	133	×	143	×
104	×	114	○	124	×	134	×	144	×
105	○	115	×	125	×	135	○	145	○
106	×	116	○	126	×	136	×	146	○
107	×	117	○	127	○	137	○	147	×
108	○	118	○	128	○	138	○	148	○
109	○	119	×	129	○	139	○	149	×
110	×	120	○	130	○	140	○	150	○

⑪101～110の得点	⑫111～120の得点	⑬121～130の得点	⑭131～140の得点	⑮141～150の得点
-------------	-------------	-------------	-------------	-------------

①から⑮の合計

/ 15